

QOLの低下とハイパーサーミア治療の忍容性の関係について

原三信病院 放射線治療・ハイパーサーミアセンター

真鍋 麻実、元村 哲也、井上 文江、嶽本 洋、古藤 和浩、寺嶋 廣美

【はじめに】 ハイパーサーミア治療では治療部位の加温を行うため、できる限り高出力での治療をめざす。今回長期にハイパーサーミア治療を継続している一患者について、QOL・栄養状態・治療効果などが治療の忍容性にどのような影響を与えるかについて検討した。

【症例】 61歳男性。2012年呼吸器症状のため受診。腎臓がん、転移性肺がん、がん性胸膜炎と診断された。2013年1月スーテントを開始。5月にハイパーサーミア治療目的で当院受診。

【経過】 QOL、血清アルブミン、治療時の体重は最高出力(忍容性)と相関がみられなかったが、腫瘍の治療効果は相関がみられた。

【考察】 ハイパーサーミア治療では、倦怠感・圧迫感・熱さなど、ある程度、患者に忍耐を強いる部はある。これらの治療忍容性に影響する因子としては、患者の全身状態・QOLなどが考えられるが、今回経験した症例では、腫瘍の治療効果が治療忍容性によく関連していた。

【まとめ】 治療効果によって、患者の治療意欲は変化するものであり、ハイパーサーミア治療の忍容性にも、大きな影響を与える可能性がある。精神面での看護、副作用症状の緩和が、治療の忍容性が向上させるのではないかと思われる。